

## バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員および研究員、○は発表者、※は大学院生、卒研生または卒業生

学会名	日本植物生理学会2016（平成28年）第57回大会・シンポジウム <a href="http://jspp.org/annualmeeting/57/">http://jspp.org/annualmeeting/57/</a>
演題名	Maintenance of stem integrity induced by tissue incision（傷によって誘導される茎の健全性の維持）
発表者	Weerasak Pitaksaringkarn[1], <u>Keita Matsuoka</u> [2], <u>Masashi Asahina</u> [2], Ryusuke Yokoyama[3], Kazuhiko Nishitani[3], Hiroaki Iwai and ○Shinobu Satoh[1]（植物生理学研究室） [1]筑波大学 生命環境学群、[2]帝京大学 理工学部バイオサイエンス学科、[3]東北大学 理学部
内容	本講演では、シロイヌナズナ切断花茎の組織癒合に必須の転写因子とオーキシンを中心とした植物ホルモンの関与、細胞壁代謝 酵素遺伝子XTHの機能について紹介した。以上は、帝京大学と筑波大学、東北大学による共同研究から得られた成果を中心としたものであり、帝京大学では、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業、科学研究費補助金(若手B)による支援を受けて整備された実験施設、設備を活用し、転写因子の発現解析と植物ホルモンの機器分析を担当した。 参考文献: 朝比奈雅志、Pitaksaringkarn Weerasak・佐藤忍（2015）植物の切断組織における組織癒合へのホルモンと細胞壁代謝の関与、BSJ-Review vol. 6 Asahina M & Satoh S.（2015）Molecular and Physiological Mechanisms Regulating Tissue Reunion in Incised Plant Tissues. Journal of Plant Research, 128:381-388